

# 令和5年度 湖西市総合教育会議議事録

1 日 時 令和6年2月19日(月) 午後3時00分～午後4時33分

2 場 所 湖西市健康福祉センター 研修室

3 出席者

(1) 構成員

市 長 影山 剛士

教育委員会

教育長 渡辺 宜宏

委 員 袴田 雄司 西川 倫予 菅沼 泰久 山下 恵子

(2) 意見聴取のための関係者として出席した者

教 育 次 長(鈴木啓二) 企 画 部 長(安形知哉)

企 画 政 策 課 長(馬淵 豪) 教 育 総 務 課 長(戸田昌宏)

学 校 教 育 課 長(黒柳孝江) 学 校 教 育 課 課 長 代 理(石田 隆)

教 育 総 務 課 課 長 代 理(仲本 真武) 教 育 総 務 課 主 任 主 査(加藤裕美)

(3) 会議の事務のために出席した者

教 育 次 長(鈴木啓二) ※再掲

教 育 総 務 課 長(戸田昌宏) ※再掲

教 育 総 務 課 課 長 代 理(仲本真武) ※再掲

4 協議又は調整に係る事項

教育DXの現状進捗と今後について

5 協議又は調整に係る事項に関する出席者の発言

別紙のとおり

## 午後 3 時00分開会

(企画部長) ただいまから、令和5年度湖西市総合教育会議を開会する。初めに、市長から挨拶及び令和6年度予算について説明をいただきたい。

(影山市長 挨拶・令和6年度予算説明)

(企画部長) それではここからの進行は教育委員会に交代する。

(教育次長) 続きまして、協議事項の教育DXの現状進捗と今後について、教育長より説明をいただいた後、教育委員の皆様には順番に発言をいただき、市長からは1人の委員が発言した後に意見を述べていただくという流れを進める。それでは教育長からの説明をいただきたい。

(教育長) 資料「湖西市教育DXの現状進捗と今後の予定」と資料「GIGAスクール構想によるタブレット端末活用の実践例一覧」があるが、この中から大事な事柄を拾って説明をさせていただきます。

令和2年度に学校の無線LANの設備と、2年度末に1人1台タブレットを導入した。これは令和元年度に学校が休校になったことにより、このような話がでてきたものである。実際の活用は令和3年度からであり、今3年間で過ぎようとしている。最初導入した時は、置く場所から充電する場所までいろいろな事柄で先生方が悩まされていた。導入をしてからの2年間は拡大をしてきた時期であり、今後これらを定着させながら、もっと深く使えるように進めていきたいと思っている。

令和3年度の初めごろは、学校の混乱が予想されたため、ICT活用をサポートするICT支援員という人材を各学校に配置し、教員に対し研修を行ったり学校へのサポートを行ってきた。大々的に使うよう市の教育委員会から一斉に全小中学校に指示を出したのは、東京オリンピックのときが最初である。聖火リレーが平日の8時30分から新居関所で行われることから、子供たち全員がタブレットで視聴するよう指示をしたが、それに耐えられるだけのLANが整備できているかどうか、実際に確認できる初めての機会であった。一部不具合はあったが、ほぼ全部見ることができたということで、そのあたりは問題ないことが確認でき進めている。

良い事案として、例えば体育の時間に自分の動作を取って視覚的に見返すとか、そのデータをグラフ化するのに使ったりとか、アンケートを集約するのに使ったりとか生徒会とか児童会がいろいろな委員会活動をする上で、これらを使ってみんなに広報したとか、いろいろな使い方が出てきている。

課題としては、過去に家庭へ持ち帰り、タブレットが使えるかどうかを確認してはあるが、その後毎日家に持ち帰ってタブレットを使用できているわけではないのが現状である。例えば休みのときに持って帰ってもいいよって子供たち言っても、そのまま学校に置いてあったりとか、学校によっては荷物が多くなるので置いておいてもい

いよって言う学校があつたりなど、まだまだ本当の定着がされていないように思う。今後試行錯誤しながら取り組んでいきたい。とくに不登校の子供については各学校がそれぞれ対応しているが、不登校の人数の違いや教職員の人事の配置の関係もあることから、思うようにいっていないのが現状である。学校に来ている子に対しては、学校の別室で授業風景を流したり、家で見たいと言えば、それを流して対応している学校もあるため、一步一步進めていければと思う。他の課題としては、先生方の中での差が大きく、特に年配の先生には抵抗感がある。とにかく書いて覚えなきゃ駄目だっで考えている先生もまだまだいる。そういった面での教員間の差や、学校間の差を教育委員会が主導で何とかしなくてはと思っている。

教職員の校務の面では、だいぶ活用が広がってきた。令和4年度に教員間の連絡のための学校グループウェアを導入し、いろいろな連絡とかスケジュール管理がシステムでできるようになった。また、今年度からは学校と保護者との連絡アプリを導入し、欠席連絡や学校からの連絡に対応できるようになり、非常にペーパーレス化が進んできたと思っている。

令和6年度以降は、教科書がデジタル化することから、自宅にタブレットを持ち帰って見るという形に進んでいくと思っている。小学校5・6年生、中学生については、外国語と算数・数学がデジタル教科書になる。また、中学校の技術家庭でのプログラミング教育のため、プログラミングの教材を新しく導入するなど、一步一步着実に進めている。

国の方もいろいろな事柄でタブレットを使うようになってきており、例えば4月に行われる全国学力・学習状況調査においてタブレットを使用したものにしていく。学力面はまだだが、学習状況調査では、タブレットで答えてすぐ集計結果が出るというふうな形のものを持っており、ゆくゆくは学力面でもタブレットを使ったものになる。来年度は湖西市で1校指定を受けており、筆記のテスト以外にもタブレットでのテストも行う予定である。

もう一つ大きな問題点としては、タブレットが令和7年で5年になることから、タブレット交換時期のことが心配である。今のところ、前回と同じように国から補助金が出ると思っているが、今後どのように変わっていくかとの心配点がある。

**(市長)** ここからは各委員からの意見をいただきたいが、パソコンやタブレットについては数年で減価償却が終わってしまうため、更新時期がきている。県の市長会でも大議論になり、文部科学省に働きかけ何とか今回の更新も最低限前回並みの補助ができるようになったが、最初の頃は教員の間や学校の間で活用率に差があるため、そこに本当に補助しなければいけないのかという考えであったため、国がGIGAスクールとして導入したのに更新しないのはどういうことだということで、財務省主計局の文部科学省担当がたまたま同期であったため、当然財源としては限られてはいるが、一旦導入したらランニングコストが大変大事な問題になってくるので、そういうのは市町村とか県ではなく、国でしかできないことだからということをお願いをして、何とか

ここまで来た。

今日市議の方も傍聴しているが、一緒にこういった要望をしていきながら、子供たちの教育環境の整備をしていく必要がある。そういった観点からもぜひ応援の発言をいただければと思う。それでは袴田委員より意見をお願いします。

**(袴田委員)** 市長から最初に結ぶという言葉をいただいたが、僕からの質問もこの結ぶとあわせて、DXを活用して湖西市内の企業とコラボしたらどうなのかというところがまず一点、そのコラボを活用しての教育、この人材育成というところも一つ、その二つを意見交換させていただければと思う。

うちは袴田精機という会社をやっているが、その中小企業でありながら、以前鷺津中学校の先生が来て、タブレットを使って企業説明を企業訪問という形でやっていただいたことがある。その経験の中で、スムーズにいったのが、先生がタブレットを持って事前に企業訪問し、事前に企業の中、モノ作りについて勉強していただいてから、コーディネーター役を先生にさせていただいた。その中で先生がいろいろ質問することによって生徒が興味を湧かせる、非常に盛り上がった企業説明会というか企業訪問になったのではと思った。先生も一緒に企業を見学してもらいながら、モノ作りと一緒に学んでいったというところが、すごくスムーズにいった一番の要因だと思う。それに合わせて生徒たちも、モノ作りに対して興味を湧かせるというところに繋がったのではと思うことから、こういったやり方も一つありではないかと思ったのが、まず1点目である。

もう1点は、プログラミングを勉強するということなので、せっかく市内企業でプログラミングをやっている企業もあると思うので、そういった企業の方に、タブレット等を使いながら、生きたプログラミングを生徒に説明してもらいながら、生徒、子供たちにプログラミングって楽しいんだというところに繋げていってもらうのも、一つの人材育成であると思った。この2点意見交換できればと思う。

**(市長)** 鷺津中の件は袴田精機さんに大変お世話になりました。先生方も良かったというのは聞いているので、本当に先進的な取り組みとして、また受け入れていただきありがとうございます。教育長の説明にもあった通り、子供たちが学ぶためには教職員も使いこなしたり、わかっていなければいけないというところは大変おっしゃる通りである。そこはやっぱり袴田精機さんでの経験も大きかったし、これはタブレットというかDXの面とモノづくりの面と両方が良かったと思っている。こういった取り組みは今、モノづくり推進室で、他の企業も含めて広めているため、学校との連携は非常に大事であるため継続してやっていかないといけないと思っている。

特に2点目のプログラミングは、教育委員会の話にもありましたが、すでに発明クラブの中学生コースだとか、青少年の科学体験とかで、ずいぶん前から一部だが始めており、特に中学生コースを発明クラブで創ってからは、今年全国大会に2年目出場したりとか、本当にそれが好きなお子さんは、もう熱中して自分でやってしまうというか、これはもちろんかなりの差があるかと思うが、学校全体でこれからやるの

はボトムアップという意味でやっていかないといけないと思っている。そういった観点から、やりたい子は発明グループの中学生コースとか先進的なことを行い、全国大会世界大会を目指すと言っていましたし、当然ボトムアップの観点でプログラミングをどんどん教育委員会、各学校で広めていきたいし、そういったところを相互に企業からの需要も含めて、教えていただければと思う。

**(教育長)** 袴田委員から意見がありましたが、市内の企業の方とかいろんな方に非常にお世話になって子供たちが非常に勉強になってるな、体験できてるなっていう実感を持っている。私が教育長になって一番最初1年目に、中学3年生全体にアンケートを実施した。そのときにあなたはこの湖西市にずっと住み続けますか・湖西で働きますかっていうアンケートの設問に対し、約5割の生徒が湖西を出るつもりとの回答であった。どうして湖西を出るのかと聞いた質問に対しては、6割が働く場所がないという回答であった。要するに、湖西市には工場がいっぱいあるが、外は見えるが中が見えないというところで、なかなか何をやっているのかわからないというところもあり、市の産業部ともタイアップしながら、企業の中も見てもらった方がいいだろうっていうことで、いろいろ進めてきたのが今の現在である。それでタブレットもずっと使い始め、企業の方々も非常に協力的で、本当に助かっている。今年市民意識調査の結果、これからも湖西市に住み続けたいと思う人の割合は80.9%であり、そのうち29歳以下の割合は71.5%ということで5割だったのが7割に増えている。要するに湖西市内がどうなっているのか、どういうところで働けるのかということ、子供たちなりに少しわかったのかなって思うので、今後もいろいろな企業の方々にも力を貸していただき、湖西にも働けるところがあることを知らせていきたい。

**(市長)** そのアンケートはよく覚えているが、当初働くところがないって思われていたのがすごく衝撃的であった。袴田委員や企業の皆さんにもご協力いただきながら、数字的にも上がってきてるのはありがたいと思う。

**(袴田委員)** 企業がアピールできるっていうことも一つあると思っている。これだけDXの教育しているということは、大人の皆さんは知らないと思うので、子供たちからこんな楽しいDXなんだっていうのを、お父さんお母さんにね、発表してもらってのも一つあるのかなと思う。非常にいい勉強なのかなと思ってますので、ますますDXを進めていただきたい。

**(市長)** もしかしたら本題からずれてしまうかもしれないが、今まさに企業や市役所において人手不足であるが、どういった人材を採用していきたいかっていうのが、このDXはもちろんなんですけれども、個人的意見で結構ですのでどんな人材に来て欲しいかっていうのがあれば、教えていただきたい。

**(袴田委員)** まず人としてこの人が優秀なのかなっていうよりも、この人だったらどんな仕事でも教えていたら、どんどん吸収しながらいい人材として、人として成長されるんだろうっていう、素直なのがまず第1だと思っている。その次に、このDXの関係でサイバーセキュリティっていうものを、自動車工業会からチェックシートで

要求されているが、DXの勉強をしてきていない従業員が多いため、専門的知識っていうのは非常にない状態だが、このお客様からチェックシートに基づいて、全部クリアしないと将来的な仕事が減る可能性もある。逆にサイバー攻撃に遭ったら、企業として存続が厳しくなるというようなことを言われ始めてきている。そのため、そういった勉強をしてきた方たちに入ってもらえると、中小企業でもここまでやれるんだというようなところにも繋がっていくので、企業防衛にも繋がると思った。

**(市長)** サイバーセキュリティの基礎知識とかが大事なんですね。もちろん人間力っていうところがあると思うが、GIGAスクールにおける小中学校においては、できる限りそういったことへの興味関心から始まって、位置づけていくのが大事だということを確認した。続いて山下委員より意見をお願いします。

**(山下委員)** 事前にこの教育DXの現状進捗と今後の予定を読んで3点ほど質問がある。1人1台タブレットの持ち帰りの状況と、不登校児童生徒への活用状況というところだが、教育DX推進のためにはどちらも家庭とか保護者の協力が必要だと思った。持って帰っても低学年は全くわからないし、もちろん親世代も初めてタッチする方が多いと思うので、ICT支援員っていうものが各学校へ授業研修とか研修支援をしているのであれば、保護者への講習会、もしくは児童生徒と授業の中で一緒に学べる場を設けるなどしてはどうかなって思うのが、一点です。

次に不登校児童生徒への活用状況ですが、課題として教員が現在の業務をしながら、オンライン授業を行うのは人手不足のため難しいと記載があったが、退職された先生方に協力を願えば、オンラインの部分では大丈夫なのかなって思う。少し前にテレビの番組でどこかの市がそういう取り組みをしているっていうことで退職された教員の先生方にお願ひし、オンラインで取組を行っているというのを拝見した。教科は限られると思うが、單元ごとに録画をしておくなどしても必要に応じて選択して配信できるとよいと思う。不登校児童だけじゃなくて欠席したお子さんとかにも授業の遅れを取り戻すことができると思う。

三つ目は1人1台タブレットの活用状況で、4年生の算数科「直方体と立方体」の学習で、児童が展開図の作図から印刷組み立てをする授業は、工作が不得手な児童にとっても楽しく学ぶことができていると良いと思ったことから、特別支援学級の授業でもこういった実践がされてるのが気になった。

**(市長)** できれば菅沼さんに保護者の観点からのご意見を伺いたい。

**(菅沼委員)** 子どものタブレット端末の操作の習得の速さとか、こういうものに対する適応力のすごさっていうのは本当驚いていて、先生に教わったのかって聞くと、いや自分でわかったとか言っている。僕は逆に子どもに教えてもらうこととかもあったりするが、そういう意味では、GIGAスクールの導入としてはすごく成功しているというのは本当に肌で感じる。一方で得意じゃない方とか、Wi-Fi環境がない家とかもあるので、そういったところをどう対処していくとか、ボトムアップするとかっていうのは当然課題としてあると思うが、やっぱり子供のいいところを伸ばしていくため

に、そういったものを使うというのはすごい有効だっていうのは親としても感じている。

**(市長)** 率直な感想が聞きたかったため、急に振ってすいません。まさにおっしゃる通りかなと思って、行政だと今言ったようなボトムアップというか、とにかくDXでよく言ってる取り残さないために、誰1人遅れたり取りこぼさないようにということで進めているので、先に進む方はどうしてもフォローできないことも多いが、子供の習得スピードが速いので、YouTubeやTikTokなども見ても、親が知らない間にすぐ操作を覚えてしまうなど、子供のそういう知識欲も含めてフォローしていかないといけないと思っているし、それを保護者が届かないのも困ってしまうため、こういったやり方が良いのかは考えていかないといけないと思っているが、一緒にできると一番良いと思う。

もう1点退職した先生の活用については、これはおっしゃる通りで本人の希望や教科によってはその通りですが、これはぜひ活用していきたいし今でもできることは行っている。GIGAスクールだけではなく退職した先生にお願いしてるのは、例えば家庭児童相談もそうですし、部活動の地域移行に関しても、フォローで入っていただいたりしてこともありますし、いじめ防止対策準備室でもそういった先生の相談を受けていただくとか相談に乗っていただくようなスキルを活用していけるところには、お願いをしている状況にあたりするため、いろんなところで一緒にやっていただくとありがたいと思う。

**(教育長)** 先生方は辞めると退職互助組合っていう組合を結成する。その組合にお願いしているが、なかなか勤めてくれる先生がいない。これは年金が65歳になったことが要因であり、60歳から65歳までの先生は、普通の先生として勤めている。そのため、産育休の先生の代替については、65歳から70歳の先生という形になっている。65歳以上の方が産育休の代替として若い先生のクラスへ入って、鬼ごっこなどで走り回るのもなかなか難しいということで、先生の数を満たされないという悪循環であるが、何とかお願いしますという形でやっている。先生とは言わず、いろんな方面の方々や会社の方々に、こういうのに詳しい方がいれば、教育支援員ということお願いできればありがたいと思っている。

**(市長)** これは制度上湖西市だけの問題ではなく、本人の希望もありいかんともしがたい部分もあるが、企業の方っていうのは非常に今、DXというか、例えば企業でスキルを持っておられ、湖西市の職業訓練センターで講師も含めてやりたいっていう方もいるため、人材としてどこまで手が回るかは苦しい面はあるが、学校での活用、子供たちのために紹介できればよいと思った。

**(西川)** 先ほどの不登校児童生徒への活用という部分だが、今現在の教員の先生方に新たにオンラインのものを作っていただいたりとか、それこそ退職された方にオンライン授業のものを作成していただくっていうのはもう人手不足という部分で難しいと思う。例えばタブレットだけを市から貸与して、民間の学習用のアプリを導入し、自

宅で見る方への支援を市としてするとかは難しいのか。もしくはもうやっているのか、民間の方の授業を見るという、先生方が作っているものではないものを見るというので、学習を支援するというのはいかがか。

**(市長)** 学習の進捗状況とか、どれが見れるかっていうことはあるかと思うが、代替手段になるかどうかは別にして何もないよりは当然いいことだと思うしそのようなアプリはいっぱい出ているから、活用としての手段としては一つのアイデアとして可能であると思う。

**(教育長)** 今そのようなことはしていない。手段としてフリースクールとかいろいろな方法があるため、県ではその補助をどうするか、補助をするためには規制をするべきかなどを研究していることから、その様子を見たいと思う。

**(市長)** まずは学校の授業がある中で、その中でDXがあって当然家庭学習も含めてやっていくが、不登校の方々もそれぞれの需要があるため、こういったものを紹介するのか、フリースクールもそうだが規制となると手続きが煩雑になったりもするので、やり方を考える必要があるとは思う。続いて菅沼委員より意見をお願いする。

**(菅沼委員)** 教育DXというのは、市町村でだいぶ差が出るころだと思うし、タブレットを使うということに関しても、全国的な先進的なトレンドとして、自宅でタブレットの宿題をやって、学校に来たら他の人とディスカッションし自分の意見をブラッシュアップしていくとか、そういった探究的な授業をやっている自治体もある。そういうことは湖西市の規模だからできることはいろいろ政策にもあると思う。だから国からいろいろやりなさいって言われるのはあると思うが、その一歩先を行ったというか、湖西の子供たちの教育、そのどういう方向にするかっていうのやっぱり佐吉翁のチャレンジ精神とかそういったものがすごく大きいと個人的に思い、先程から言われているボトムアップ、例えばみんながみんなプログラムをできるようにならないといけないとかそういうためにDXを使うのではなく、どちらかという伸ばす方例えば勉強ができないけど自分ってこんな特技があるんだとか、こういったことが好きなんだっていうのを見つけるためにDXを使うとか、その辺の環境作りを先生とか、ICT支援員がやってあげるとより楽しくなるし、操作はもうみんなわかっていると思うので、そういうところはあるかなというのを思った。

あと結ぶっていう単語でおっしゃっていたので、僕も他の市町との差別化を図ることで人を呼ぶってというのは、一番肝いり政策だと思うし、その時に例えば教育を一つの柱にしてっていうのも十分あると思う。どういうふうにやるかっていうのはそれはいろいろあるかもしれないが、湖西の良さみたいところ、例えば自然とか、モノ作りとか、英語とかも含め、そういうのをDXで結んでいく。DXで何かプログラムをやること自体が大事ではなくて、そういうことで湖西の良さみたいなものを、発見しながら、この地域の良さもわかるし周りにも湖西の素晴らしさみたいなものを伝えていくみたいな、DXの可能性としてすごく感じるころがあり、それは自分の子供たちを見てても、本当に無限の可能性というところから入りますけども、そういう意味

では今後すごく期待をしているところがある。あと先ほど山下委員が言われたみたいに、親がそういうことを一緒に関わっていく機会をなるべく持ちたいなと思ってはいるが、その辺はこれからの課題かなっていうのを自分で思う。

それともう一つ、書くことがどんどん減っていると、それはそれで弊害はあると思うので、僕はどっちかというとな保守的な人間なので、その日本の文化とか伝統は、書くことなしでは衰退していくと思う。その辺はDXの反対側にあるものとして、きちんとフォローしないと日本のそういうものが薄れていくような、危機感を自分で感じているところである。

最後に不登校児童のところ、どちらかというとな不登校になってる子に対するDXの活用を考えているが、そうではなく今アプリでも子供の心の課題把握みたいなものができるアプリがある。そういうのを使うことで、まさに個別最適な支援で、不登校からの脱却を図るというところにDXを活用されたら、一般的にみんなに関わることはないかもしれないが、それで救われる子供がいるのであればそれはすごく大きいことだということのは個人的に感じた。

**(袴田委員)** DXといっても会社でも使うが、Zoom等で日本全国の人たちと打ち合わせをしたりするが、それが海外の小学生同士がZoom等を使って世界がどうなっているかどういふふうになってるのかなとか、言葉は生きた英語はこういうふうに使われてるんだとか、そういったものに使っていくっていうのも一つだと思った。

**(市長)** 感想になるかもしれないが、日々漢字を忘れてるって感じており、それはおっしゃる通りと思う。冒頭にあった先へ先へっていう部分は、やりたいのは山々だが行政がやっていると必ず反対方面から平等というか公平と言うかってことは言われることから、バランスを取りながらやっていくことと、先んじていくところは発明クラブだったりとか、学校だけではなくて様々な対応には部活動の地域移行もそうですけど、そういうところにどんどんできるようにしていくのが、先へ先へというところは僕としても望むところと思い、そういうもののメニューを用意していかないといけないかなと思うが、学校だけというわけにはいかない部分も現実としてあることから、そこは企業の方とかと一緒にやっていかないといけないかなと思う。それが2番目のところにも一緒に、我々湖西市として今はモノづくり人材の育成、これをこの数年間でモノづくり推進室を設置してやってきて、例えばトヨタ自動車さんや市内多くの企業が協力してくれており、先日は技能五輪であったりジャパンモビリティショーとかにも招待いただき子供たちが行った。そこですごく興味を持った子供もおり、技能五輪は製造業だけでないため、いろいろところに興味を持ってくるので、モノづくりの人材育成としては1次から3次産業までというところを湖西市としてはすごい地道な作業なんですけど、モノづくり推進室の職員が地道にそういう企業回りやっており、企業の方々の協力もあり、そこを進めていくのがまず一番であると思った。

あと袴田委員からの海外との関係とかいうのは、社会人でもZoom等オンラインでできるようになったので、そういったことを子供たちもできればだし、今多文化共生

の国際交流協会が青年海外協力隊で行っている子と、オーストラリアとを結んだりとか、ブラジル出身の方とブラジルとを結んだりとか様々な機会を設けてくれているので、そういったところも活用していくのが良いと思い、学校だけではなくて様々なところでそういう子供たちが体験と経験していくことが大事であると思った。続いて西川委員より意見を願います。

**(西川委員)** 先ほどからもタブレット端末の更新の時期がいずれやってくるということであったり、教育DXを継続して今後も進めていくためには、必ずOSのアップデートなどが必要となるってということがわかっていて、今はまだ国からの補助が出るので進めていけると思うが、この先永遠に国の補助があるのかは、確定ではないと思っている。そういったことを考えていくときに、市の財源を考えていくと、いずれはBYODの導入ということで自分のデバイスを持って学校に行ってそれを使用するっていうことに切り替えていくことも考えてはどうかと思っている。ただそれにはやはり校則の見直しであったりとか、新たなルールを策定していくとか、そういった難しいことはあるとは思いますが、今後の取り組みの一つとして、そういったことはどうか伺いたい。

**(市長)** おっしゃる通りで、最初のGIGAスクール導入の時ですら、国からの補助金は少なく、市としてもかなり頑張って整備した。今回の更新も国が出さないという勢いであったため、市長会とか全国の自治体で繰り返し申し入れをした。他方でDXに限らずいろいろな政策において、未来永劫補助金等の支援は期待できないため、今おっしゃったようなDXだとかタブレット使ったりとかも、この先どうなるかわからないが、何を使うかはともかくそういった支援っていうのを考えていかないといけないが、今回は一気に導入するものだったため、小学校中学校で一律のものを比較、選定し、更新している状況である。西川委員のおっしゃられるとおり、高校は自分で購入して高校が指定するアプリを入れる形になっているので、そこと同様の方向になると思っている。ただし高校生と小学生では、一律同様のことができるのかってところもあることから、保護者も含めて、どういうものを入れたりだとか、必要な機能とか増えていくのかもしれないし、ここまではいいよねっていうものがあるかもしれないので、ここは次の更新だとか次の次の更新だとかそういったものが必ずくることから、そこで現実的にやっていかないといけないかなと思っている。方向性としては西川委員がおっしゃったような方向になるんだろうと思っている。

**(袴田委員)** 設備の更新の話がでたが、それをリースで組んでいくのか、それとも5年間の後に新しく買い換えるといった場合にはその間で予算を立てて、その設備買い換えるように準備していくということになっていくと思うが、これから方法をいろいろと考えると思うが、その辺は大丈夫か。

**(市長)** 今の話は最初の導入ですごく議論があって、リースだったら補助金を出さない等いろんな制約を課された。リースの方が平準化できたり、予算面でも市としてはやりやすいが、国の補助なしでやるのは相当きついなと考え、いろいろな制約のなか

やっていると現実がある。始まってしまったら、次にどうすればいいのかがわかってくるため、そこは更新方法も含めて、改善点があると思う。西川委員はお子さんが高校であることから、その経験も踏まえてアドバイスをいただきたい。

**(西川委員)** うちの子どもの場合には高校生で、高校生になると当たり前のようにスマホを全員持って、学校に行って授業でも使うというのが当たり前になっている。その中で校則がとても厳しく、子どもの通っているところが中高一貫校だったので、中学生はもう学校に行ったら、先生が携帯を回収し授業のときだけに出す、もしくは学校の中で使っているのを見つかったら、親のところに連絡が来て親が取りに行くっていうようなそういったルール等が決まっている中で、皆さんがきちんと活用している状況だと思うが、ただ小中学生が自分のデバイスを持って学校に行くとなると、例えば授業以外には使わないとか、そういったことを先生方にやっぱり指導していただく必要がある。学校が勉強を学ぶためのところではないということを考えれば、その辺のことも、今後先生方に指導の中で力を入れていただきたいと思う。

**(市長)** どんどん更新していったら今度はスマホの時代になったり、もっと違うものが出てきたりするかもしれないので、学校の先生もそればかりやるわけにいかない。どういった方だとかどこまでやってもらうっていうのは本当にここは具体的なものを、やっぱり技術の進展に伴って湖西市だけでなく使い方とか授業のやり方ってのは変えていかないといけないかなというふうに今聞いてて思ったので、更新だけでなくそこは本当に企業のやり方も含めて勉強していかないといけないと思った。

残りの時間に関しては、皆さんから出た意見や、その他でも結構ですので、もし委員から意見があれば伺いたい。

**(菅沼委員)** 人材育成、子供の力と教育イコール人材ですね、モノづくり人材の育成というのがされているところはすごく大事だと思う一方で、海外でプロジェクトベースで一期一会で、いろんな国の人と一緒にチームでやっている。そういうところでやっていく人材って、果たして今日目指してる人材の方向でいいのかというのはすごく感じる。日本のやり方が間違ってるかっていうとそうでもないと思うし、袴田委員が言われたように人間力っていうのが一番大事などというのは、すごく日本人に特有の良いところだと思うが、行き着くところは湖西市の教育ビジョンで佐吉翁のチャレンジ精神というところになったときに、普通の勉強だけやってればそれができるか、そうじゃないし、そこをDXで今後伸ばしていったらあげるようなことを少しでも取り入れてもらう、発明クラブなど湖西のいいところだっていうのは本当に感じている。

**(市長)** まさにその通りで、あれもやりたいこれもやりたいといっぱいある中で、湖西市はどうなんだと言われたら、まずはモノづくりのまちとしての人材育成というのはずっと話している。これは学校という枠を外れての話もあるが、モノづくりって意味はやっぱり付加価値をつける1次産業であれ3次産業であれそれが小学生、もしくは今の発明クラブの中学生コース、あるいは地域だったり、企業の方だったりと触れ合

いながらやっていくことが大事なので、市全体として機会を増やしていくってことが大事だと思っている。冒頭教育長の発言にもあったが、湖西市好きだけど住んでいないとか、仕事がないと思うってところに対しては、仕事があるとか、技術があるとか会社があるってのは覚えてもらったりとか、そこから自分の興味でモノづくりをやってもらうというのは、知ってもらうのって大変である。袴田委員の発言にもあったが、こういうことをやってたりとかこういう機会があるんだよってというのは知っていただくのが大事なため、市としても一生懸命PRをしていくが、菅沼委員の求めているものに対応できるかどうかわからないが、そういった機会を増やしていくと、可能性を増やしていくってのは大事かなと思って、学校でもそうですし発明クラブとか青少年科学展だとかキッズフリマだとか、モノづくり推進室は製造業だけではなくてウイングを広げてやっている。

**(山下委員)** DXとは違うが私は自然が大好きなので、DXとは離れて土に触れるとか農業、海とかも浜名湖もそうだが、自然豊かなところの教育に関する取り組みっていうのは、個々の学校で決まっているのか、学校枠を抜けて例えば東小学校では小学校のときバケツ稲をやったりするが、そういったところはもうちょっと力を入れるっていうの考えはないか。

**(教育長)** 体験活動っていう意味で取り入れているが、稲なのか、なすなのか、きゅうりなのかは、学校によって違う。例えば新所だとイチゴ作りだとか、白須賀だと大根作りだとか、それぞれの地域によって違うが、地域の方々に手伝っていただき、PTAの方の力を借りながら、各学校で工夫を凝らしている。

**(市長)** 地域性があったりするので、アサガオとかはやってるかもしれませんが、地域によってお米だとか、それは学校に挨拶運動に行ったりすると、子供たちが運んだり水やりをやったりしていることから、そこは続けていきたいと思う。DXの中でもそういうのを見たり観察したりして、実際土いじりもそうですが、両方で組み合わせることが大事かなと思ったので実際の実体験が大事なのももちろんですけども、両方でできるといいかなと思う。

**(袴田委員)** dボタン広報のスタートって画期的だと思ったが、これは年上の方でもリモコンのdを押せば、湖西市の情報がいっぱい出てくるんだというのでどんどん情報を発信していただくと、普段携帯もインターネット繋いで見るような方ではない方でも、いろんな情報を見れると湖西市のことはここ見れば一発でわかるというふうに画期的なことだと思うので、どんどん広げていっていただけるといいと思う。

**(市長)** これは湖西市だけではなく静岡朝日テレビで実施しているが、広報媒体は多ければ多いほどいいので、知らないとか伝わらないって言われてることの方が多いため、一つの手段として取り入れた。昔だったらホームページに掲載して終わり、もしくは広報こさいに掲載して終わりだったものを、dボタンっていうやり方さえ覚えればテレビを見る人でも取れる、平時からまずはいろんなイベントとか募集記事を見ていただくように思っているの、これはどんどん周知してテレビを見る人、もしくは新聞

を読む人、SNSを見る人などいっぱい増やしていくのは大事かなと思っている。今市役所だよりを月に2回発行しているが、回覧板形式なので全然伝わっていないという話もあった中、配達員の負担がすごく配布物が多いとか伝わるのが遅いということでもいろいろなことが限界に来ている。その代替手段としてdボタンで見れますよ、リアルタイムで見れますよ、広報だったら発行してから1~2週間伝わるのに時間がかかるが、それを何とか早く見てもらう方向に移行した。紙も残すが2回のを1回に減らしたりとかっていう手段を、代替手段として今進めている。

**(企画部長)** 以上で、令和5年度湖西市総合教育会議を閉会する。

閉 会                      午後4時33分終了